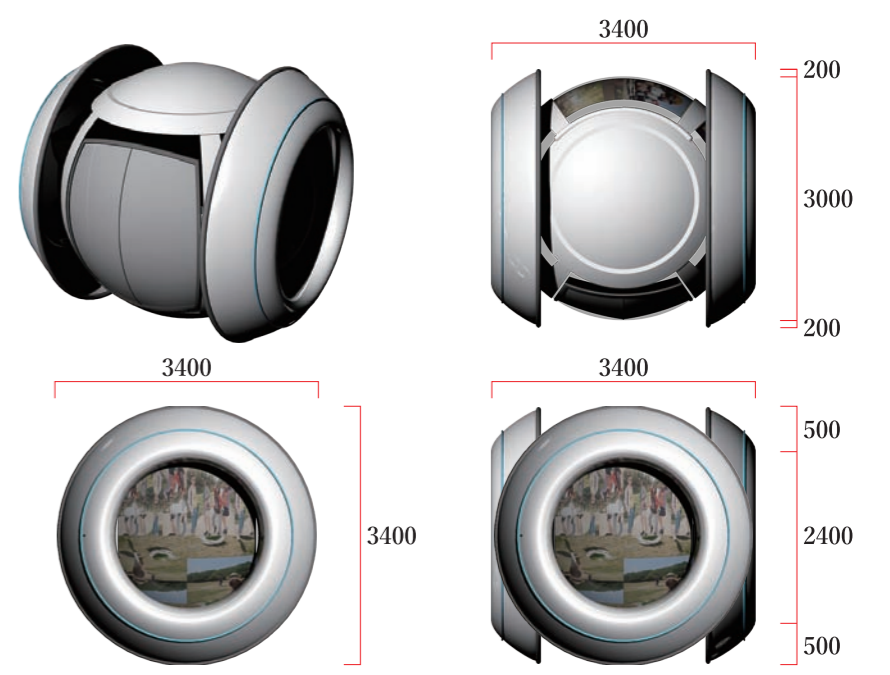
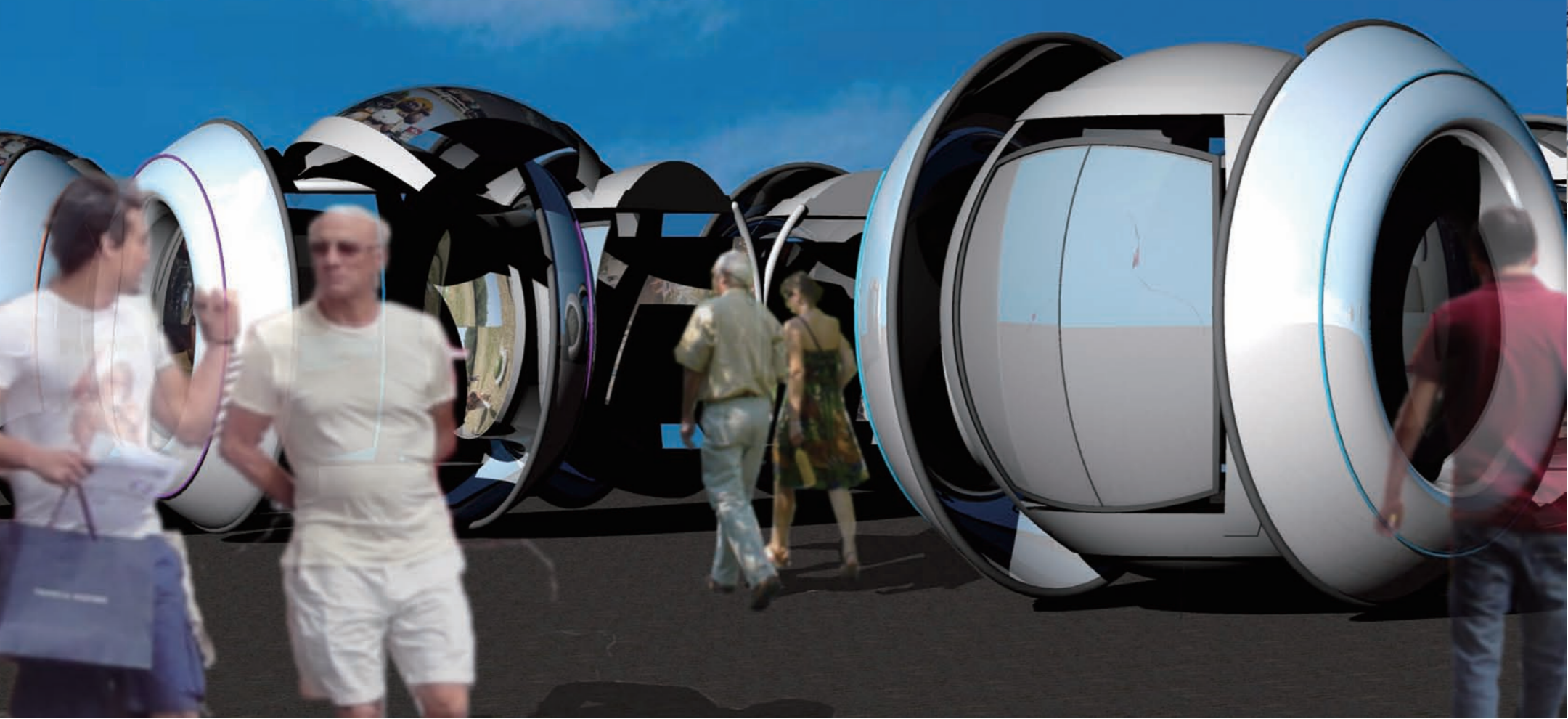


commu-EV

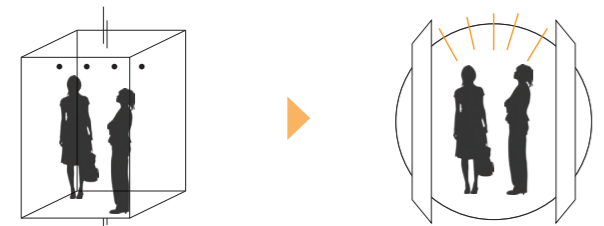
～ お節介なエレベーターがつくるまち～

私たちは、乗り合わせた人々の情報を利用し、地域コミュニティの形成を促すお節介なエレベーター (EV) を提案します。
 乗り合わせた人々の情報を収集し、その中での会話を促し、「residents-community」を形成すると共に、さらに (EV) が外へと飛び出し、人々をつなげることで「area-community」を形成します。
 私たちは、コミュニティの崩壊が叫ばれる現在において、ほぼ唯一と言える不特定多数が同じ時間を共有する空間の 1 つがエレベーター (EV) と考え、そこに住む人々の携帯端末と連動して、乗り合わせた人々が”くすつとなるような”目を合わせてしまうような EV をつくるのがコミュニティ形成の鍵になると思います。



CONCEPT

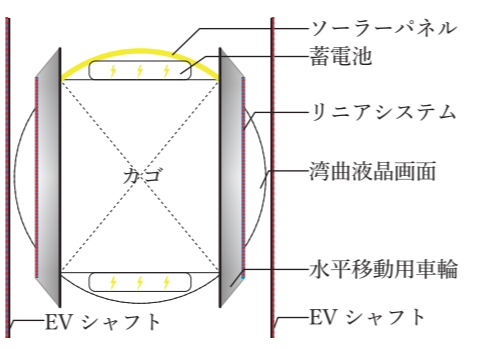
私たちは地域コミュニティの形成を促す、少しお節介なエレベーター (EV) を提案します。



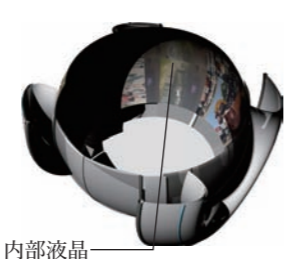
EV は気まずい。不特定多数の人々が同じ時間を共有する空間でもある。少しのきっかけを与える (お節介) ことで、コミュニティが形成される。

ELEVATOR GIMMICK

EV の垂直移動にはリニアシステムを用い、水平移動はタイヤで行う。タイヤはソーラーによる電力で稼働し、タイヤを持つことで、豊洲地区内を自由に移動することができる。

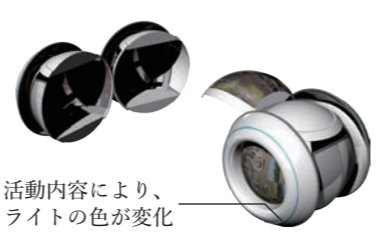


内部液晶画面 (内部断面)



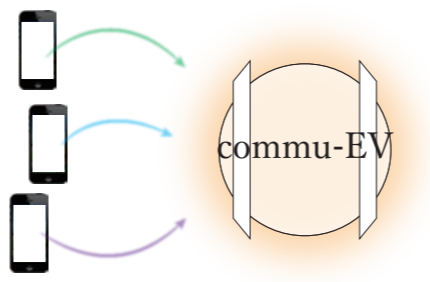
丸型が EV 内の安心を生み出し、液晶により人々を繋げる。

コミュニティスペースへの変形



EV が変形し、コミュニティスペースとして、地域に出る。

RESIDENT COMMUNITY

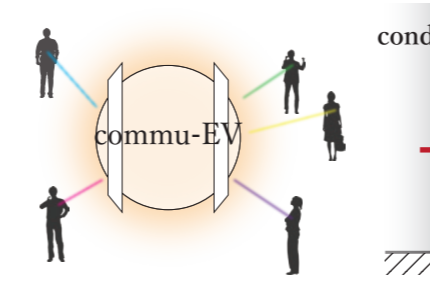


乗り合わせた人々の趣味や写真などの情報を EV が収集

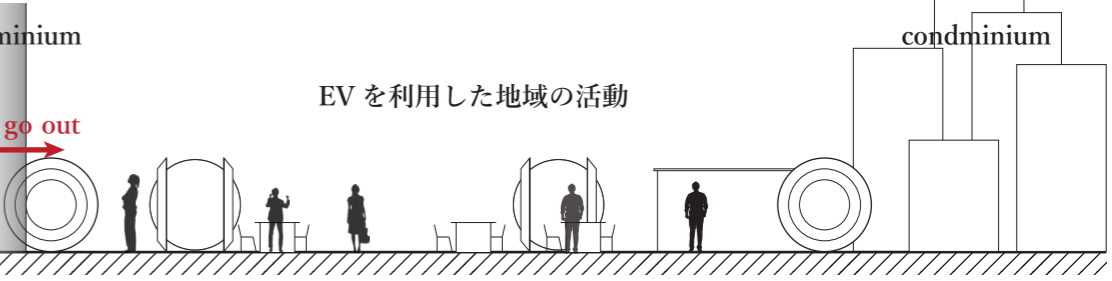


EV が収集した情報から共通の話題となりそのような情報を内部ディスプレイに提供する。

AREA COMMUNITY

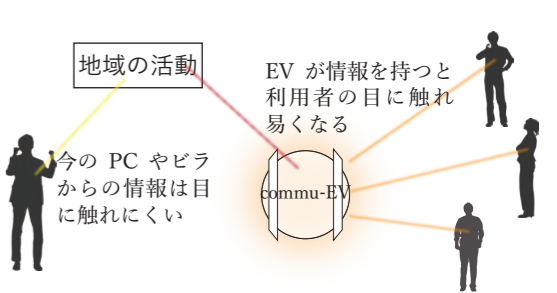


収集した情報からその人が求めている地域活動の場に EV が運び、人々をつなげる。



EV は外に飛び出し、公共の椅子や机、広場などを利用しながら、地域の人々が様々な活動を展開する拠点として、地域アメニティを向上させるコミュニティ器具となる。

EV 内部で共有提供



また、各個に合う地域の活動を紹介し、地域の活動の場を身近なものにする。

SITE

東京都江東区豊洲地区

東京都江東区の豊洲地区は近年のマンション開発により若い世帯が多く移住し、人口が急激に増加したことで、コミュニティがうまく形成されていないという 1 つの問題を内包している。



commu-EV

～ お節介なエレベーターがつくるまち～



① BACKGROUND

エレベーターの可能性

エレベーターは「不特定多数の人々が同じ時間を共有する空間」というポテンシャルを秘めています。そこに、私たちは未来のエレベーターの可能性を見い出しました。

都市部の建物が高層化する現在、人々はほぼ毎日のようにエレベーターを使い、他人と同じ時間を共にしています。しかし一緒に乗りあわせても、階数の表示板を見上げたり、携帯を見ていたり、気まずい時間をなんとかやり過ごすことに必死になっています。せっかく、毎日他の人たちと接する機会があるにもかかわらず、人々が「気まずい」だけの時間を共有していることに疑問を感じました。



また、現在の日本を取り巻く環境として、コミュニティの希薄化による種々の問題が挙げられます。それは、「隣近所でおしゃべりする」＝「地域や人々の様々な情報を共有する」という光景が失われたことが1つの要因ではないかと考えました。



そこで、私たちは、「不特定多数の人々が同じ時間を共有する空間」というエレベーターの可能性を最大限活かし、情報の共有を通して、他人と関われる少しお節介なエレベーターを提案します。

エレベーターに乗ると他人と関わってしまう、それが、私たちの「乗って楽しいエレベーター」です。

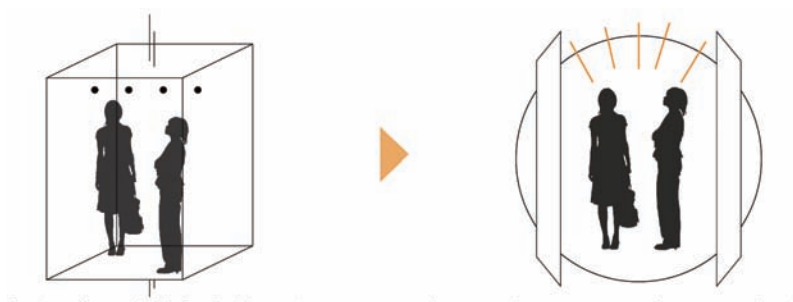
② CONCEPT

私たちは、他人と関わりを持たせる少しお節介なエレベーター”commu-EV”を提案します。

それは地域コミュニティの形成を促すことを目的としたエレベーターです。

まずエレベーター内で「時間を共有」させるために、乗りあわせの人々の情報を収集して、ちょっとしたおしゃべりをするように促します。これにより住民同士のコミュニティ＝「residents-community」を形成します。

さらにエレベーターが住民を外へと連れ出し、住民と一緒に地域の活動をするように促します。このように住民同士をつなげることで、地区全体のコミュニティ＝「area-community」を形成します。



3 SITE

豊洲地区は東京の江東区に位置する比較的新しいまちで、広場や緑地などが充実し、マンション開発が進んでいるため、若者を中心に多くの人々が移住している地域です。

しかし、人口の急激な増加により、本来長い時間をかけて形成されるはずである、コミュニティを形成することが難しくなっています。

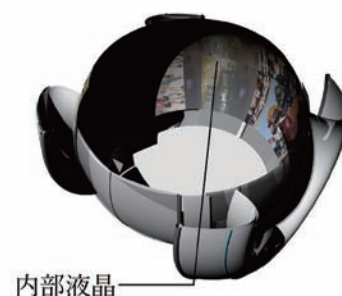
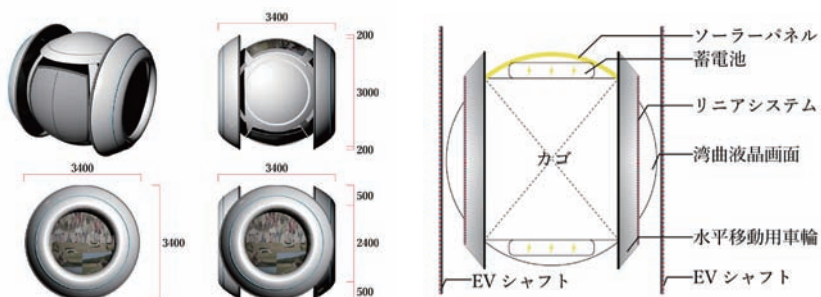
また、2020年に開催される東京オリンピックの選手村やスタジアム建設の予定地も近く、2025年にはこれまで以上に成長することが見込まれる、注目度の高いエリアとなっています。



4 ELEVATOR DESIGN

デザインコンセプト

コミュニティを形成するエレベーターのデザインとして、球形のデザインを採用しました。球体に囲まれた内部空間は、母親に抱かれる赤ん坊のように、乗り合わせた人々の心を落ち着かせ、リラックスできる空間を創出します。



ギミック

EVの垂直移動にはリニアシステムを使い、水平移動はタイヤで行います。タイヤはソーラーによる電力で稼働し、タイヤを持つことで、豊洲地区内を自由に移動することができます。丸型がEV内の安心を生み出し、曲面の液晶により人々をクスッと笑わせ、人々をつなげていきます。

地域の活動を展開する場合は、EVが変形し、コミュニティスペースとして、地域に進出し、地域内の人々をつなげていきます。



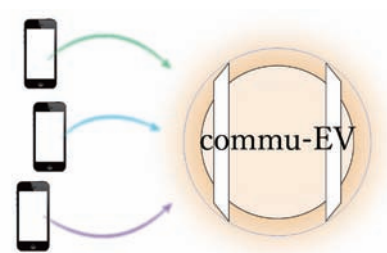
活動内容により、
ライトの色が変化

5 RESIDENTS COMMUNITY

クスツとなる仕掛け

エレベーターはまずマンション内のコミュニティを作ります。

今現在、誰しもが持っているスマートフォンから、一緒にエレベーターに乗っている人々の情報（趣味や関心ごと、お気に入りの写真など）を抽出し、エレベーター内部の曲面の液晶に投影します。



それをきっかけとして、例えば、小さい子供の写真が映され、「かわいいですね、お子さんですか?」、好きな音楽バンドの情報が映されて、「このバンド、私も好きです。」という会話のきっかけを作ります。

このように乗りあわせた人たちが「くすつとなるような」「目を合わせてしまうような」、話すきっかけを自然に作りだすような仕組み（お節介）を行います。



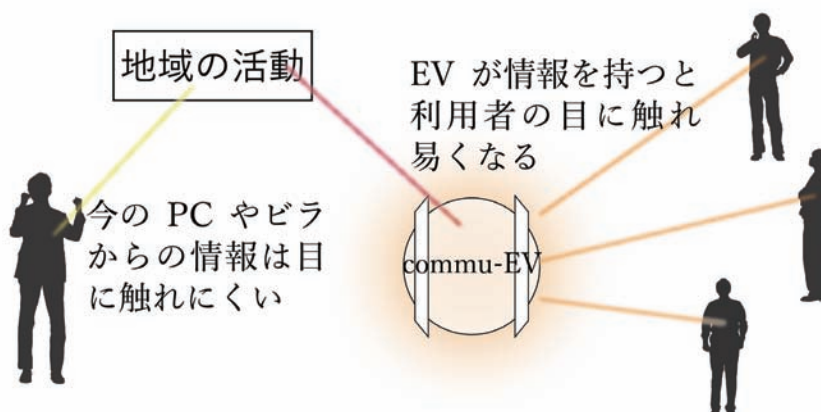
地域の情報を発見する

エレベーター内には地域の情報も流れています。

地域の活動が多様化し、生涯学習や様々な人々と活動をするチャンスは増えているものの、それらを見つけるためには、インターネットや行政への問い合わせなど、活動に参加するまでに少し、面倒くさいプロセスを踏まなければなりません。

そこで、これをエレベーター内で確認ができ、気に入ればその活動の場所までエレベーターが連れて行く機能を持たせました。

これにより、地域住民が自分たちの住む地域に興味を持ち、そこで行われている活動に参加し、人と人が繋がっていくきっかけを生み出します。



6 AREA COMMUNITY

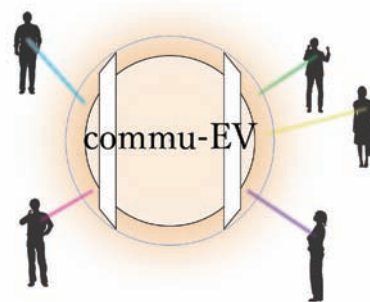
地域とつながる

エレベーターで発見した地域の情報をもとに、エレベーターが建物から外に飛び出し、人々を活動の場まで連れて行き、1つの共同体をお節介のように作り出します。

その活動は豊洲地区内に点在するかわいい公共のいすや机、広場などを利用しながら、地域の人々が様々な活動を展開するコミュニティスペースとなります。

その際にエレベーターが変形し使うことが出来、ルーフやモニターとして活躍します。

これらを通して、人と人・地域の仲を深め、地域のコミュニティを形成していきます。エレベーターがお節介を焼くことで豊洲地区の住み心地をより高いものに昇華させます。



■コミュニティスペースのメニュー（例）

i. オープンカフェ

エレベーターは、人と人がおしゃべりすることのできるオープンカフェに姿を変えることができます。仲良くなった人々はここでさらに知り合い、仲を深めることができます。

ii. ミーティングスペース

同じ趣味をもった人々が集いあうミーティングスペースとしても活用することができます。つまりお互いに深く知り合った人々が、さらに新しい活動を生み出す場所となることができます。

iii. 青空教室

子どもたちが青空の下で、地域に開かれた教室を楽しむことができます。また子どもたちと地域の人々とのふれ合いを、少しでも増やすことができると考えます。

iv. 映画館

エレベーター内のスクリーンを活用して、映画を上映することができます。人々は同じ物語に見入って、感情を共有することで、さらに仲を深めることができます。

v. フィットネス

スクリーンに動画を映し出すことで、屋外のフィットネスセンターとしても活用することができ、共に汗を流すことで仲を深めることができます。

